

令和3年度 第1回下呂市地域公共交通会議 会議録

日 時：令和3年8月12日(木) 午後1時30分～午後3時20分

場 所：下呂市役所 下呂庁舎 3-1 会議室

出席者：16名（代理出席含む） 欠席3名

1. 開式

2. 市長挨拶

3. 自己紹介

4. 当会議の令和2年度事業報告と令和2年度事業計画について

5. 報告事項

○事務局（生活課長）森本容功

と思いますが、いかがでしょうか。（質問なし）それでは次に参りたいと思います。次第の5報告事項につきまして事務局より説明をいたします。報第1号、令和2年度コミュニティバス等の運行実績について報告いたします。

○事務局（生活課担当者）二村和男

事務局の二村でございます。まず冊子の4ページからご覧ください。令和2年度運行実績についてご報告申し上げます。続いて5ページをご覧ください。上の表は、コミュニティバスの前年度比較表です。前年度と比較しますと、全体的に乗車人員が減少しています。げろバス下呂では前年度比較でマイナス7561人、萩原ではマイナス4171人、金山ではマイナス6798人となっております。下呂バス馬瀬は、令和2年度にデマンド馬瀬に切り換えております。委託料に関しては前年度後期、同額となっております。前年度よりコロナ禍等の中で運行距離が若干少ない部分もあるのですが、全体としては前年度より増額となっております。

続きまして、下表はデマンドバスの前年度比較表です。運行経費が増加している部分もあり、デマンド金山デマンド上原中原の委託料は増額しています。また、デマンド上原中原は運行実績も増えているため、その分においても増額をしております。デマンド金山については、利用者数はマイナス680人、デマンド上原中原がプラス106人となっております。

続きまして6ページをご覧ください。6ページ、上の表はコミュニティバス過去5年間の比較表となっております。利用者数は年々減少傾向にありますが、令和2年度は、コロナ禍の影響と思われますが、特に減少幅が大きくなっております。下表はデマンドバス5年間の比較表となっております。デマンド小坂、馬瀬は、令和2年度からの運行ですので、令和2年度のみの数値です。

令和元年度にダイヤ改正をしましたデマンド上原中原は堅調に利用者数が増加しております。元年度実施しました改正ダイヤが地域ニーズに合致するためと考えております。

続きまして7ページをご覧ください。7ページは、令和2年度月別利用者数内訳等とスクール利用者数を除いた利用者数の現状となっております。コミュニティバスにおいて利用者数の総数の68%が、デマンドバスにおいては、64%がスクール利用者となっております。

続きまして8ページをご覧ください。令和3年4月より新ダイヤとなりましたデマンド小坂、馬瀬の、前年度と今年6月までの利用者比較数です。デマンド小坂の利用者数において、前年度に対してマイナス3名となっているところもありますが、デマンド小坂、馬瀬全体としては、前年度より利用者が増加しています。令和2年度4月から6月は、コロナ禍の影響の大きい時期ではあるので一概には言えませんが、ダイヤ改正には一定の効果があったと感じております。以上です。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございました。ただいまの報告内容につきまして、ご質問、ご意見等がございました。お受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○岐阜大学教授 倉内文孝

前回も少し同じようなことお聞きしたかもしれないですけども、馬瀬地域に関連して、元年度から2年度において、コミュニティバスからデマンドバスへ変更になったわけですが、乗車人数だけを見ますと、げろバス馬瀬の令和元年の1万2852名に対して、令和2年度のデマンド馬瀬が7998名ということですので、おおよそ半減しているということになるのかなと思うんですけども、その理解で合ってますでしょうか、っていうのが1点と。これについて何か評価というか検討というか、原因なり何なりという所について考察されているところがあれば教えていただきたい。

○事務局（生活課担当者）二村和男

まずデマンド馬瀬とげろバス馬瀬の利用者比較なのですが、まずデマンドバス制度の説明不足や、ミーティングポイントの設置箇所など、地元ニーズが捉え切れていなかった部分があったと感じております。ただし、令和3年度の改正は、事業者のご協力のもと、バスの運行の本数を変えたりとかですね、ミーティングポイントも増やしたりしまして、その結果、今、堅調に、コロナ禍ですが、伸びていると思っています。やはり最初ですのではなかなかその地元への説明も、難しかったし、2年度時のダイヤやミーティングポイントの場所に多少問題があったと思います。そして3年度になって良くなったということだと思っています。

○岐阜大学教授 倉内文孝

ありがとうございます。そういったところで改善に努めてられるということなのですね。もう1点確認があります。途中の説明であった、小中学生の利用者数についてです。概算で算出しているという事ですね。デマンド馬瀬ですと7998名中5000人程度が小中学生という事です。小中学生が大きく増えたり減ったりしていないとすれば、令和元年度も同程度ぐらいの利用か、コロナの影響を考慮すれば、もう少しあったかもしれないですね。そう考えると、一般利用の方は、かなり減っているっていうことになってしまっているのかなというふうに読めてしまったのですけれども、そういう認識で間違いはないでしょうかっていう、よろしくお願いします。

○事務局（生活課担当者）二村和男

基本的にはその認識で間違いないと思います。そもそも、市全体のスクール利用率が非常に高いということは事実あります。

○岐阜大学教授 倉内文孝

はい。ありがとうございます。

○事務局（生活課長）森本容功

他にどうでしょうか。はい。それでは次の報告事項の方に参りたいと思います。報第2号、令和2年度福祉乗り合い型移動サービス事業実績につきまして、担当部署であります、社会福祉課よりご報告申し上げます。よろしくお願いします。

○社会福祉課 野村友美

失礼いたします。9ページの方、第2号、令和2年度福祉乗り合い型移動サービス実績報告についてご報告させていただきます。紹介が遅れました社会福祉課の野村と申します。よろしくお願いします。それでは10ページの方、開いていただいて、まずまめなカーの運行実績、事業目的等について簡単にご説明をさせていただきます。まめなカーの事業は、身体的要因に

よる移動制約者の中で、既存の公共交通機関や福祉サービスが十分に利用できない方の移動手段を確保することによって、隙間のない公共交通サービス網の構築を図ることを目的として、福祉的施策として行われている事業となっており、本格運行が平成 30 年の 4 月からとなっております。

続きまして 11 ページの運行利用実績の表をご参照ください。会員登録者数ですが、令和 3 年 3 月末時点で 358 名となっております。利用実績につきまして、運行回数は月平均 175 回。実際の利用者は月平均 47 人あたりであります。利用者も徐々に増えつつあります、とあるのですが申し訳ございません。こちらの利用者も徐々に増えつつあると、記載させていただいておりましたが、令和 2 年度につきましては減少となっております。令和 2 年度が令和元年度よりも、運行回数がマイナス 742 回となっており、約 26%の減少となっておりますので、ここで訂正をさせていただきたいと思います。大変申し分けございませんでした。

続きまして、12 ページの行き先別データをご参照ください。行き先別ですが、利用者の行き先は全体で下呂温泉病院が 36%を占め、金山病院の 7%、医院・治療院の 31%を合わせますと、74%が通院に利用されており、対象者が介護認定者や障害者手帳所持者ということから、主に通院に利用されているということが考えられます。

続きまして、13 ページ、付き添い人のデータをご参照ください。付き添い人の有無につきましては、全体で 26%が付き添いに有り、74%が付き添い人無しでの、ご利用となっております。なお付き添い人は、利用者数や乗り合いにはカウントされておらず、利用料金も徴収しておりません。続きまして 14 ページ、距離別利用回数の表をご参照ください。回数を見ていただくと、1 キロや 2 キロが多くなっております。17 キロ以上の長距離の利用回数は 49 回ということで、金山駅からの下呂温泉病院などへの定期的な通院でご利用されている方だと考えられます。

続きまして 15 ページの時間帯別の利用回数をご参照ください。時間帯別の利用回数は、通院での利用が多いことから、午前中が多くなっており、帰りの時間帯は診療の終了時間の違いにより、それぞれの時間帯に利用回数が分布していると考えられます。以上でまめなカーの実績報告は終わらせていただきます。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございました。ただいまの内容につきまして、ご質問、ご意見等ございましたが、お受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。（質問なし）はい。それでは報第 3 号デマンドバス馬瀬のミーティングポイントの追加につきまして、報告をさせていただきます。

○事務局（生活課担当者）二村和男

16 ページをご覧ください。報第 3 号デマンドバス馬瀬ミーティングボードの追加について。古関区からの要望により、古関区内にデマンドバス馬瀬にミーティングポイント 1 ヶ所設置しますので報告します。17 ページをご覧ください。古関区からデマンドバス馬瀬のミーティングポイント設置要望がありました。古関区長、運行事業者、との協議の結果、古関区内にデマンド馬瀬のミーティングポイントを設置します。

設置場所ですが、18 ページの位置図、と、19 ページのこの上の地図、詳細な箇所図においてご覧ください。場所は国道 257 号線沿いの場所となります。19 ページ下の写真 4 の、ポールの位置にミーティングポイントを設置いたします。ミーティングポイント名は、古関上段、いたします。ミーティングポイントの名称と設置箇所は、古関区長と協議済みです。

時刻等の設定ですが、次 20 ページをご覧ください。これは現在のデマンド馬瀬の時刻表になります。この時刻表での乗降場所 52 番、美輝の里、と 53 番、上跡津（小林整形前）の間に設定します。時刻は 53 番から 56 番と同じです。年内にミーティングポイントの設置、供用開始を目指して、現在準備を進めております。以上でございます。

○事務局（生活課長）森本容功

ただいまの報告内容につきまして、ご質問、ご意見等がございましたらお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。（質問なし）本会議の報告事項につきましては以上でございます。

6. その他

○事務局（生活課長）森本容功

その他ということで、委員の皆様方からご意見、ご提案等ございましたらお受けしたいと思います。委員の皆様、何かご意見等ございましたらご発言願いたいと思います。

○(株)ライドシステムズ 野中一起

飛騨タクシーの野中でございます。今日のご苦勞様でした。昨年、一昨年の会議の中で、観光協会長瀧さんの方から、観光に関する二次交通の提案をいただいております。で公共交通の中では、観光客とか観光のための二次交通というものが、なかなかやりづらいついていうか、難しいなという課題があったのですが、先ほど瀧会長さんの方からも、この体験型の観光施設など、いろんな体験型ものが活発に下呂市内で行われるようになってきたというお話がありました。やはりそういうところ見ていきますと、観光のためにそういう交通を取り組んでいく必要があるのだということも、私も交通事業者として感じておりました。

何とかそこへつなげていくためには、やっぱり少しでもこの観光のための交通手段を模索していく必要があるということで、先般、細江部長、熊崎観光課長の所へ提案に参りました。提案としてはこの下呂駅と合掌村、湯之島街道、かえる神社、出雲大社や下呂魚介を結ぶ巡回バスの運行を提案しました。

下呂市内を巡回・観光ができるような、巡回バスができないかということで、ちょっと検討を開始しております。実は従来から、旅館さんへの送迎バスが走っておりまして、それを弊社の方で受けさせていただいています。それは旅館さんと、駅を結ぶ送迎のバスです。これをもう少し拡大して、観光スポットを回れるようにしてはどうかという事です。これは旅館さんからも協力、さらには費用的な協力もいただきながら、また市や商工関係者さんであるとか、そういう方々も巻き込んでいくことでできる発想ではないかということを考えております。で、まだこれは提案段階ですので、当然、観光協会や商工会、また、下呂市においても検討いただきながら、そういう風に繋げていけるといいなということで提案をしております。その節には皆さんのご協力をお願いしたいと思っております。もし、観光協会長の方で、もし何かコメントあれば、よろしくお願いします。

○下呂温泉観光協会 瀧康洋

はい。提案内容は細江部長からも話を聞いていますし、野中さんからも聞いています。いっぺんには、できないので、スモールスタートしながら、様子見ながら、うまく下呂市全体を網羅できるような形を作っていくことが大事ななと思っています。もちろんその辺は市民との連携、融合して、やっていくべきだと思います。

僕もアメリカヨーロッパ視察行ってきましたけども、市民生活の質の向上に、観光を手段として使うというふうに言われてきていますので、その方向へ向かってやっていくことはとても大事だと感じます。イベントも、市民と観光客を分けてやるわけではない、これ一緒だってやるわけですから。今年状況ですが、まだコロナ禍が続いていますが、実際、体験型がある程度売れてきている。本当は去年が勝負だったのです、ある程度作って去年が勝負で、結果が出てきて、先日、岐阜県観光連盟がネット会社の三重交通の方々を連れてきて、去年の数字見てびっくりして、いやこんなに売れているのですか、と。考えられませんか、去年の厳しい状況の中、結果を出してきて、今年に繋げてきていますので、観光は派手ですけど、実際は地道にやらなきゃいけないくて、地道にやるのが、観光が一番大切でして、それをこの10何年こつこつとやってきた結果が、今、下呂温泉だけじゃなくて、下呂市全体に反映しつつあるという、形になってきている。そこでやっぱり外せないのは、この地域交通。二次交通というよりか、地域交通という言葉を使わせていただきたいと思いますけども、地域交通を、うまく活用して、やっていくことによって、下呂市全体が、観光の力によって活性化し、全市民の生活質を上げていくことに繋がっていくのではないかなと。そういう意味で、今回野中さんからそういう提案をいただいたことは非常にありがたく受けとめております。以上です。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございました。ただいま観光二次交通というなお話もいただきました。皆様方のご意見等ございましたらご発言願いたいと思います。

○観光商工部長 細江博之

観光商工部の細江ですが、今、観光協会長、それから、野中社長の方からお話いただきました件については、情報共有させていただいています。現在は合掌村の方にバスが一本走っております。

それから、温泉街においては自家用車のお客が多いのですが、そういった移動が非常に重要になってくると思いますので、観光協会長、そういう話をされました。また旅館組合さんの方でも当然、そういった要望がでてくるかと思いますので、そういったところを民間の方たちの意見をしっかりといただいて、市の方としても、そういった運行に関しては、当然、良いことだと思っていますので、検討の上ですね、こういった公共交通会議の中でご意見をいただいて、進めていければと思っていますので、どうかよろしくお願いします。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございました。私の方から一言お願いします。今現在、デマンドバスということで各地域を運行しております。昨年度の会議でもお話をさせていただきましたが、基本的にはデマンドバスは市民の足をまず第1優先ということは考えております。ただ、その中でも、そういった観光二次交通は引き続き検討といいますか、有効にデマンドバスが活用できるように、進めていきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。以上でございます。

○下呂温泉観光協会 瀧康洋

補足しますけども、それで全部補うという話でなくて、他にレンタカーもあるし、サイクリングもあるし、タクシーもあるし、その中での一つの選択肢として公共交通も活用できないかなと思っています。手段の一つとしてという事です。だからすべてそちらに任せるなんていう考えはないので、そういうふうに受けとめていただけるとありがたいと思います。

○市長 山内登

デマンドバスの利用状況は、多くが市街地以外の方方で、病院へ行く足で、ある特定の方々が多く何回も使われるというのがほとんどのパターンだと思います。

実は、今年の4月から6月までの乗降者受付簿から実利用者人数を調べました。4～6月の3ヶ月でデマンド金山が32名。デマンド上原8名。中原17名。小坂38名。馬瀬23名。この方々が、主に通院でお使いになっています。市としては、こういう方々の足を絶対に確保しなければならないという使命がありますので、利便性をしっかりと図りながら、やっていきます。一方で経費の面からみますと、一人に対する経費、つまり費用体効果があまりよくない、細かい金額は計算してもらえばと思いますのであえて申しませんが、結構な経費となります。

民間バス会社さんの当然路線バスで走ってみえます。我々コミュニティバスがある、デマンドバスがある、まめなカーがある。そしてその中で観光客の方々に下呂市内全体を回ってもらうために、従来のものを使うのか、それとも、新たな何かを考えていくという事は、検討をしていかないと、なかなかマッチするものがないのでは、探すのが難しいのではと感じます。これは先生のご意見もお伺いしたのですが、非常に僕らとすると、悩んでいる所で、一番いいのは、みんなが使いやすいのはドアTOドアのタクシーである。まめなカーのようなタクシーが一番いいのですよ。ところがタクシー使うとやっぱり金額的な問題があります。まめなカーは通常タクシーより安価で利用できている。これは野中さんが非常に大サービスでやってもらっている。その辺も踏まえ、地域交通で観光の方々の足も確保するという事は難しいなというのが我々の本音で、本当に真剣に研究しなきゃならないなというような思いはあります。

ただデマンドバスを去年初めて小坂・馬瀬を運行してみて、かなり修正の部分を地元の方と

話し合った結果、こういう結果で、今年の4月から直したら、これだけの利用率もあるし、もちろんPR不足もあったので使い勝手がわからないということもあったと思います。これが軌道に乗っていけば、もっともっと幅広い方々にも使っていただけるのかなっていうような思いは持っておりますが、観光とどうやって、マッチしていけばいいのかっていうことは、ちょっと我々としてもきちんと考えていかなきゃいけないのかなあという所がありますんで、また先生のご意見でもあればまたお聞かせ願えればと思います。

○下呂温泉観光協会 瀧康洋

なぜこれ言うかっていうと、市側が観光客にも活用するという事を規約の中に入れてあったからである。その上で当時会議出席者が私であり観光商工部がいなかったのも、お願いして細江部長たちが、出席するようになった。市として検討していく、考えていくと言っているわけなので、そちらでしっかり考えていくべきだと思います。

○岐阜大学教授 倉内文孝

今、瀧会長の方からご指摘されたところは、非常に重要だけれども難しいところです。やはり、今までのやり方っていうのは、例えばスクールバスや、福祉用のまめなカーがあるというような形で、利用者ごとに分けるっていう考え方で、一番わかりやすいと思います。

資料に、まめなカーの時間帯別の利用データもありました。これを見ると実は病院利用ですと、午前中の朝一番の利用が非常に高く、あとは帰宅時、帰りでも大体午前中の中でこう、色々と広がっていくっていうような傾向にあります。何を申し上げたいかっていうと、要は、考えないといけないのは利用者の層と、交通機関のタイプですね。これに加えて時間帯っていうのが実は利用のニーズで随分違うはずなんです。

観光客の方は、朝一番に動くってことは中々ない。例えば、その日にこられるのであれば、昼前ぐらいから本格的に動くと考えれば、実はうまくその辺りからマッチする可能性があります。ただ、これ可能性としか言えないのは、データがないです。そういう意味で、しっかりと検討されるのであればまずはデータを取るところからぜひ検討いただければ、いいのではないかなと思います。

デマンドバスを観光客の方に使っていただくのは、実はかなりハードルが高いです。というのは、路線バスですと、駅を降りて最寄りのバス停から時刻表で確認しながら、皆さん乗りますよね。それでもバスって結構ハードル高いですよね。要は前乗るのか後ろからなのかとか、先払いなのか後払いなのか、整理券を取るのか取らないのか、色んな所が地域あるいはバス事業者によって変わったりするので、そういう意味でもかなりハードルが高いのですが、デマンドになりますと、電話をかけないといけないとか、或いはちょっと進んで、スマホでできるところもあるかもしれませんが、そういったところになると、格段にハードルが高くなってしまいます。そういう意味で、今マースなんていう言葉で、スマホとかを使って、そういったところのハードルを下げようという取り組みあるにはあるのですが、やっぱりそれがこの議論のあるような観光客のユーザー層と、そういったITみたいなものが合うのかっていうところもあるかもしれませんね。そういう意味で、いろいろとたくさんの技術がありますが、そういった技術も含めて、しっかりと調査いただいて、ここのターゲットとしている層の方が合うのか否か。合わないとなれば、例えば駅前にコンシェルジュのような方を置くものいいのかもしれないです。いろんなローテクでのカバーもできると思います。そういった様々な方向、選択肢を検討しながら、データをしっかりと見ましょ、という事です。ハイテクとローテクをうまくミックスして、ニーズに合ったものをしっかりと考えていけば、何かしら面白いものは必ずできると思います。大変だと思いますけれども是非チャレンジしていただければと思っております。以上です。

○下呂温泉観光協会 瀧康洋

今、先生からデジタルの話が出ましたが、実は、デジタルでも全国トップの位置までもう来ています。あと5Gがないだけです。でも国の補助金も5Gがなかったので取れなかった。断念

した理由はそこだけで、実際はかなり積み上げてきている。しっかり積み上げてきています。これは市の予算を使っていくのは難しいと思いますので、その辺は、やっぱ国の補助金等を活用して、まず1、2年は実験して、作るのが一番理想だというふうに我々考えています。

○市長 山内登

今、例えば旧下呂温泉病院の跡地を地域交通の拠点にしようかという案は前からあったですね。だから、新たなそういう交通網を創設するというのも、考えた方が僕はいいのかなというふうに思います。それはでもこの公共交通会議の中でも、当然、問義する話だと思います。昨日も馬瀬のマウンテンライフを見て参りました。ものすごい観光客が来ていました。若い子たちばかりでした。自家用車の方が圧倒的に多かったのですが、彼らに聞くとネットで情報をしっかりと得ていて、下呂温泉で宿泊をして、そして昼間、3時間ほどの十分な時間で遊んでいく。そんな流れの観光客が多くなったり、また、そのようなニーズが想定されるなら、新たな公共交通網を創設する可能性も十分にあると感じます。

金山の場合なら、筋骨めぐりや四つの瀧とかですね、小坂なら200滝ですね。どこの地域でも、バスを出せるかは不明ですが、その辺りもまた皆さん方としっかり協議していきたい。先生がおっしゃるように、確かに時間帯によっては全然動いてない時間帯もあることは間違いのないと思います。その辺はやっぱりデータもしっかりとって検討していきたい。しかし、現担当課では、メンバーが少なく、今この2人だけでやっています。この公共交通を2人だけでやるのかという話になったときに、来年の組織改編も含めて、例えば振興事務所の職員を兼務させるとかですね、組織改編をしながら、この公共交通を見直していこうかなというふうに思っています。観光も重要なジャンルだということは、我々も認識しております。その一方で、高齢者の方とかですね、通院している方の足は、やっぱり我々行政としてはしっかりと守っていかなくちゃならないというところもあります。またその辺りもまた利便性の向上を図りながら、やっていきたいなというふうに思います。また、その件に関してまたご意見があれば、お伺いをしたいと思います。よろしくお願いします。

○事務局（生活課長）森本容功

はい、ありがとうございます。その他ご意見等ございませんでしょうか。

○市長 山内登

岐阜や遠くからも、お越しいただいていますし、また地元の方々、代表の方々見えていますので、何かご意見を賜ればと思います。よろしくお願いいたします

○事務局（生活課長）森本容功

国土交通省中部運輸局の技術局富田専門官からお願いいたします。また、別冊の資料がありますが、支局さんからの資料となっています。資料説明も含めまして、お願いいたします。

○岐阜運輸局 富田康義

改めましてお願いします。資料の説明から簡単にさせていただきます。まず、中部地区の交通事業者の令和2年度の実績ということで、中部運輸局では中部5県の実績をまとめています。3枚目をみてください。乗合バスの輸送人員と、運送収入の推移を掲載しています。地域の皆様にとって身近な公共交通手段であるかなと思いますが、令和2年度ですと、4月5月の第1回目の緊急事態宣言でガクッと下がって、そこから、徐々に回復している状況でございます。乗合バスというのは地域にとって重要な公共交通手段の一つなので回復は早かったのですが、コロナ禍の影響で、通勤通学ができない期間があったり、在宅勤務が増えている関係もありまして、昨年と比較して約3割の減となっております。

高速乗合バスについては、県を跨ぐ移動等がメインになってきますので、こちらについては約8割の減となっている状況でございます。

次頁ですが、貸切りバスの状況です。これは旅行の方ともかなり連動しているところではあ

るのかなと思っています。かなり厳しい状況が続いております。昨年4月5月ですと約8割の減となっております。令和2年度平均しても、約6割7割の減となっております。タクシーについても、こちらもバスと同じように公共交通と位置付けをされておるところでございますので、早期回復をしたのですが、やはり昨年度と比べると5割6割減といった状況になっております。支局といたしましても、コロナ禍で、乗合バス業者さん、貸切バス事業者さん、タクシー事業者さんが頑張っておられるところでございますので、公共交通事業者様が引き続き経営していただけるように、何かしら支援等をしっかりしていきたいと思っておりますので引き続きご協力をお願いいたします。

次にバス停留所の安全確保対策ということで、別資料をご覧ください。国土交通省では安全確保が必要なバス停ということで、バスが停車した時に、横断歩道の上にバスが停まるですとか、交差点の中に入ってしまう、交差点横断歩道の5メートル以内にバスが停車するようなところをAからCランクにランク分けさせていただいて、公表している所でございます。

2枚目には下呂市の安全確保対策が必要な箇所ということでランクの表を付けています。こちらにつきましても、コミュニティバスですとか、事業者様の路線、複数ありますので、事業者様、下呂市様ははじめですね、関係者の皆様と連携して、安全対策に努めていきたいと思っておりますので引き続きご協力をお願いいたします。

あと、観光二次交通の話が出たのですが、倉内先生の方からも、ご意見いろいろいただいているので特段何か追加にということはないのですけれども、新たな公共交通を始めるにあたっては、やはり今既存の交通との調整をうまくしていかないと、共倒れになってしまうケースもございますし、今徐々に利用者人数が増えてきているということで地域に定着してき始めているので、そこに新しく交通を追加することでそこが崩れてしまつては、元の子もない。しっかりと人数等を把握していただいて、地域にとって、また、観光客にとって利用しやすいような交通ということで、しっかり会議で検討していただきたいと思います。局としても、引き続きご協力させていただきたいと思っておりますので、また何かありました。ぜひご相談いただければと思いますのでよろしくお願いします。

○事務局（生活課長）森本容功

はい、ありがとうございます。濃飛乗合自動車(株)有路課長どうぞ。

○濃飛乗合自動車(株) 有路課長

対策について。ちょっと補足ですけども、小川バス停については適正な対応が完了しております。警察、道路管理者と協議を実施し、バス停を高山側へ移動しております。 よろしくお願いたします。

○市長 山内登

今のお話で、Aランクの小川橋のバス停の関係なのですが、市民の声っていうのはどこまで聞いていただいているのかということで、今、移設されて北側になったのですが、横断歩道まで、100メートルぐらい、50メートルぐらいかな、離れてしまつて、逆にあそこを横断する人がいるのではないかと危険性について、地元からも声をいただいております。あそこはバスの待避所が全くない所で、近藤医院へ通われる方が利用されると地元から聞いています。横断歩道に、バスが停車して、かぶるということは、もちろん、非常に危険であるので、そこは何とか避けるのは当然なのですが、他の方法もご検討いただければというふうに思います。

地元の方々からすると、高齢者がそこから遠い位置にある横断歩道まで歩いて、渡る。当然どこかで渡るしかないのですが、そこら辺の所も、地元の声も、もう少し拾っていただけるとありがたいという声もあります。こんな所で申し上げてよかったのかどうか分かりませんが、大変ご努力をいただいているのは十分承知しておりますが、ちょっとそんなご意見もありましたので、また個別にお話をさせていただければと思います。お願いいたします。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございます。続きまして、柘植課長様よろしいでしょうか。

○下呂警察署 柘植清一

下呂警察署の柘植と申します。公共交通に関して、特になんですけれど。そうですねこの集計とか見ていただくと、病院ですとか、そういったところに行かれる方が非常に多いと思いますので、観光面とか言われるかもしれませんが、皆が行きたいと思うところがもっと増えて、それをつなげていけばいいなと感じました。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございます。続きまして岐阜県公共交通課の若草様、よろしくお願いします。

○県公共交通課 若草千夏

岐阜県公共交通課の若原です。今年度から担当させていただいて、このような会議にいくつか出席させていただくのですが、デマンド交通の利用者がある特定の方だけの利用となっていて、どのように広げていくかということが課題、というような市町村さんは結構ありました。

今回、市長がおっしゃったように、必要としている方の足の確保ということで、それはそれですごく大事なデマンドの役目だと思っています。デマンドを観光利用に広げていくという課題は今回初めてききまして、すごく難しいなと思います。もっと勉強しなきゃいけないなと感じました。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございました。続きまして濃飛乗合自動車、加藤社長様、よろしくお願いします。

○濃飛乗合自動車(株) 加藤憲治

先ほどの中部運輸局さんの資料の通りでございまして、高速バスが前々年比で、2019年度のコロナ禍前と比較して、30%ぐらい減。これはもちろん、インバウンドの方が全くいらっしやらなくなったということもありますけれども、人の移動を自粛してくださいという中で、この結果かなと思います。それと、いわゆる3密という、イメージで、バスは密だというイメージが、皆さんの中にあると感じますね。

いずれにしても、七、八年このインバウンド需要に応えるため、大分下呂市の市内路線についても、なかなか私どもも、お応えできないというようなこともありましたけれども、今それこそ、これだけの収入が落ち込んでいる中で思うのは、昨年のコロナ禍以降、結局日本人もアウトバウンドに行けないわけですね。そうしますと、昨年も今年も見てみますと、やはり高山の市内でもかなり若い方が、下呂も一緒だと思うのですが、かなり国内の旅行に行かざるをえないという言い方をすると変ですけども、どちらかというと若い人はもう最初から海外旅行へこの10年ぐらいは行ってしまった、そういうことだと思うのですよね。ただ、この行けない中で、若い人が、先ほど瀧さんがおっしゃったような、いわゆる体験型のそういったことをこの国内で少しずつ動いてらっしゃると思います。ある程度上の世代というのはもうほとんどもう国内の観光地は行っていらっしやるかもしれない。でも、若い人はなかなか国内よりも先に海外へ出てしまう。そうすると、下呂にこんないい所があったのだねとか、高山でも、それから乗鞍観光地だとか、かなり若い方が戻ってきたといいますかね、そんな感じもしています。大自然を求めるとっていうのはどこも一緒だろうなという気はしておりますけれども、いろんな意味でこの公共交通の会議の中での話で、先ほど言いましたようにやはり、少し私どもも、そのインバウンド対応でなかなかご協力できなかったという部分もあると思いますけれども、そういう点では、これからこの地域の観光、それから交通含めてですね、以前よりもまた、協力をさせていただきたいなと、そういうふうに思っております。以上です。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございます。続きまして野中社長。

○(株)ライドシステムズ 野中一起

私は大分発言させていただきましたけど、一つだけ、やはり今、加藤社長が言われましたが、私はタクシーという事で、利用者さんが減少しています。コロナ禍によって非常に苦勞されているようで、弊社も全く同じです。今、弊社と濃飛さんが下呂市の公共交通を担っております。またどうかよろしくお願ひしたいと思います。 以上です、

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございました。続きまして県バス協会守山よろしくお願ひします。

○(公社)岐阜県バス協会 森淳三

先ほどからですね、コミュニティバスやデマンドバス、いわゆる税金を投入して、運行の確保を図っている市民の足。市民のために税金を投入して走らせている、維持しているバス。

このデマンドバスを観光という部分にも生かせないかというような、ご意見がありました。その方法、方策として、考え方としては二次交通という話がありましたけれども、私はバス協会の立場ではございますけれども、このコミュニティバス等の資源というものを、観光に使うということについては、非常に耳ざわりのいいことなのですが、現実問題、倉内先生がおっしゃったように、共倒れ、そういうことが相当あるのではないかと。むしろ、二次交通ということと考えると、例えば、鉄道とのジョイントだとか、ホテルが仕切るとか、そういったことの方がむしろ有効ではないかと。

ただ問題はそこで、じゃあその金は誰が保証するのかという所だと思います。今、先ほど加藤社長の方からアウトバウンドも全然駄目だという話がありましたけれども、ほんの数年前、ちょっと思い起こしてもらおうと、例えば、旅行でハワイに行ったとします。そうするとハワイの主要なホテルにはツアーデスクというのがあって、そこでいろんなそのオプションツアーというものを、例えばアクティブ、もしくは、食事 イベントそういったものがセットした形で、提供されておりました。そういうことじゃないかなと。その一つの部品としてやっぱり、コミュニティバスの利用も出てくるのかなあと。いうことを考えます。ただそこでもやはり、最終的に問題になるのが、経費を誰が維持するのかっていうことだと思いますので、そこはしっかり議論するところです。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございました。山下様よろしくお願ひいたします。

○県交通運輸産業労働組合 山下光生

労働組合山下でございます。私は現場なので、運転手の声として聞いたのですが、デマンド馬瀬の事なのですが、私どもが担当しまして、4月から便数を増やしていただいたのですが、運転手側からみても今のところ問題もないし、反対に利便性がある。で、萩原から馬瀬に戻るやつを一本増えました。それにつきまして、今まで12時30分だけなのが、12時45分と10時30分が増えたのですが、病院に行って早く帰りたいときに便がある。そういう点では良い方に、変わったと現場の方から聞いております。この先もいろいろ考えを出していただいて、交通弱者の足を維持するということでも、よろしくお願ひいたします。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございました。瀧会長よろしくお願ひいたします

○下呂温泉観光協会 瀧康洋

僕は10年、色々見てきたのだけでも、やっぱり公共交通が伸びた町は段々と発展していきます。その姿を見てみると、そこには選択肢がいっぱいあるのですね。公共のバスを使って、その駅を使っていくのもあります。それが一番安く行けるわけです。だからそういうやり方もある。いくつもの選択肢、つまりバス、タクシー、レンタカー、自家用車、JR、そういう足を、どう選択して使っていくかという中で、公共交通の位置付けをどうするか考えていく必要

があります。だから共倒れとなるようなことは全然考えてないですよ。僕らも経営者なので、そんなことはしないですよ。もちろん、これは棲み分けをしなきゃいけないけども、新しいことを生むってことは、生みの苦しみがある。難しさがあるのは当然なことであって、でもそれをやらないと、本当に先ほど冒頭で話したように、観光はあくまでも手段で、市民全体の生活の質を向上するため、どうにかして交流人口を増やして、経済を回すことを観光の力を活用してやっていくということです。

100%公共交通でいくという話でなくて選択肢がたくさんあれば、色々な層のお客様が使えるでしょってことです。それを現実的に考えて、いい形をこれから作っていく話です。

しばらくは、国内をどう取るか、しかないです。国内をどう取っていくか、そのマーケティングの中での話なのです。

我々は、体験型をインバウンドのために作ったわけじゃなくて、地域を、観光の力を活用してどう活性化してくかという事でやってきた。これはやっぱり両方取らないと採算が合わないです。国内もインバウンドも両方取らないと採算が合わないし、こういうことが起きたときに、一気にお客さんが引いてしまいますので、それがマーケティングが機能しているっていう事です。それがDMOって意味なのですよ。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございました。西会長よろしく願いいたします

○下呂市連合自治会 西博志

ご苦労様でございます。下呂市全体のいろんな問題の中で、デマンドバスにつきましては、やはり先ほど森さんも言われました、税金の中で投入しながら、採算ベースから見れば、おそらくこれは当然合わないことだと思います。しかし、これから少子高齢化の中で、当然必要な足となってきますので、そういった地域の方々の声を優先していきたい。先ほどからいろいろ出ておりますけど、観光利用につきましては、やはり、二次交通として再度考えるべき問題かなと思います。

基本的なこの公共交通会議の中には、そういった観光のものもありますけど、いろんな意見が出ましたが、健全な運営の仕方とか、そういった高齢者、足の悪い方、不便な方をいかに救うかというのが基本的な問題だと思います。基本的にやはり、地域の方々を優先した、公共的なものを重視して考えていくっていう、そういったところが必要かないかじゃないかなと思います。決して儲かる仕事じゃないけど、基本的には、市民のための仕事ですので、そういったところには、重点を置いていただければと思います。よろしくお願いします。以上です。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございます。続きまして小林会長、よろしくお願いします。

○萩原地域連合自治会 小林美彦

議論がちょっと、本来のデマンドやコミュニティ、まめなカーの将来に向けての運行に対する建設の意見っていうのはちょっとできていないと残念に思う所です。今の公共交通を観光面に活用するともう一つの手かもしれませんが、それは季節の中で、もっと弾力的な対応の中で、新たにそのために助成も新たにするという、それは別の次元で変えるべきだと思っています。

コミュニティバス等の利用者数が減少しています。小中学校の利用者というのが6割で、今後、少子化の中、子供たちが非常に減っていき、バス利用者数もどんどん減っていきます。

今後、デマンドバスやコミュバスは、運営していけるのかなと。本当にこれだけの税金を投資して、投資効果があるのかということを肝に銘じながら、今後の施策を作っていくかといけません。そこが大きな課題で議論すべきポイントでないかと思っています。萩原地区には、これらの対象となっていない山之口という地域がございます。それは非常に不便な所です。しかしここに新たにデマンドを入れるとか、或いは、コミュニティを入れることはなかなか難しいので、私としては、こういう所には、やはり地域内のボランティアで運営していくと

いう形を形成していく、そういうシステムをこの中で議論していただいて、もっと簡単に組み組めるような、全国的にはそういうことを取り組んでいる所はいくらでもあるわけですから、そういうむしろ、公共交通から一つ離れるかもしれませんが、そういうような考え方で、弾力的な対応で、高齢化する市民の利用者っていうか、利便性をしっかり確保していくということを議論していただければ非常にありがたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。以上です。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございました。続きまして福村会長さんよろしく願いいたします。

○小坂地域連合自治会 福村晃一

失礼します。私はわからない事の方が多くいらいなのですが、私なりに思うことは、地域で、私 65 歳になるのですが、同世代が集まって話をしていますと、20 年が経過して、自分で運転ができなくなったら、ここには住めないという話をよくします。何気ない話でそういう話が出てきます。今のコミュニティバスなんかを見ておりますと、病院と買い物っていうのが多分、主たる利用でないかと思っているのですけども。

一つは、IT 診療とかそういう病院に対する関わり方の工夫とか、それから買物も通販から始まって、移動販売の車もありますよね。そういうものも含めて総合的な住みやすさというものを、今の小林さんの話でないですけど、どんどん人口減少の中で、総合的にいろんなものを絡めて、住みやすさってものを追求していく必要があるかなというのが、私個人の意見です。以上です。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございます。続きまして細江副会長さんよろしく願いいたします。

○下呂地域連合自治会 細江静雄

私、中原地区といいまして、焼石駅のある近辺の区長であります、中原区長といいますけども。正直、デマンドが出てきた最初は、多分 10 年ぐらい前で、デマンド下呂の上原便、中原便と言っていた時代。その頃が 10 年ぐらい前だったと思いますが、その当時と見ると比較的、利用者の数は増えてはきたのですが、まだまだ実際使う人はそんなには増えてきていません。先ほど市長がおっしゃったように中原便で 17 人しか実利用者がいない。私どもの地区は 900 人ぐらいの人口ですが、その中で 20 人ぐらいしかデマンドを使っていない、それだけの人にしかメリットがないというのが果たしていいのかと思っているのですが、実際に 10 年ぐらい経つと、今まで免許を持っていた人が、ようやく使い始めた事もあります。今でも 80 代で運転している人もいて、そういった方はなかなか切り換えてくれないのですが、免許を返納すると、女性で使う人が出てくる可能性もあります。ただ、男性は駄目ですね。実際見ていると、男性は免許がなくなると、家に閉じこもってしまいがちで、デマンドバスに関しても理解してくれない。

今、私たちが区長としてやらなきゃいけないのは、せっかくこういう制度を作っていたので、これをいかに活用していくのか、地域の足として確保するためには、知っているだけでは駄目なので、やっぱり使ってもらおうということで、年に 1 回ぐらいは地域にいろんなチラシを入れたり話をしたり、老人会で話したり、というようなことをやってきております。しかし通常のコミュニティバスのように待っていればバスが来るというスタイルではなくて、事前に電話をしなきゃいけないというイメージが使っていない人には面倒くさいというような意識が消えないので、ぜひ私ども区長としては、そういった人たちに対して、いかにうまく理解をしていただくか、どんなチラシを作るか、そういったところに努力をしていきたいと、こんなことをずっと思っております。以上です。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございました。続きまして中川会長さんよろしく願いいたします。

○馬瀬地域連合自治会 中川好美

路線バスからデマンドになって2年目になるわけでございます。その間利用者さんの、いろんな要望だとかに、当局が答えていただいて、少しずつ改善されているように思います。そんなに遠くない将来、おそらく、利用が想定される対象者は増える可能性はありますが、果たしてこのデマンドを利用されるかどうかは、これ予測が付きません。

それでコミュニティ、デマンドいろんな、体系はあるんでしょうけど、新たな交通手段といえますか、民業との競合だとかそういったこともあろうかと思いますが、新たな、交通手段の模索も検討しなければいけない時期なのかなと思っております。以上でございます。

○事務局（生活課長）森本容功

はい。ありがとうございました。皆様方からご意見いただきました。こういったご意見を、私どもの生活課の方で、集約し検討しながら、前に進んでいきたいということを考えておりますので、よろしくお願いします。市長、どうぞ。

○市長 山内登

今、司会の言った通りなのですけども、今日の会議は、やっぱり全体の話をするので、観光も含めていろんなことを議論していただければと思います。また小林さんがおっしゃったようなデマンドの話、これも当然必要なので、これについてはそれぞれの分科会がありますので各分科会でより具体的に、しっかりと議論していただければいいかなと思います。

いずれにしても、中原の細江さんがおっしゃったように、人数は少なくとも、将来は自分も利用する立場になるわけですから、今20人でも、将来は自分もその中に入っていくということを思うと、何とかこの制度が、より良い方向に、より利便性が高くて、我々が高齢になった時にも使えるようなものを、今からしっかりと作り上げていく。時間はかかっても、修正、改正を実施していきたいと思っております。デマンド小坂・馬瀬は始まったばかりです。いい制度だとは思っておりますが、今後、他の制度も含めて、様々な検討をしていけばいいのかなと思っています。

今は、皆さんから、ご指摘を受ける事も多いのですが、一つ一つ潰していきながらですね、いい方向に向かっていければと考えております。また今後ともご闊達なご意見をお願いし、また分科会を頻繁に開催したいと思っておりますので、各分科会で思いを述べていただければ、我々もそれについてはしっかりと答えていきたいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございます。

○事務局（生活課担当者）二村和男

最後になりますが、ワクチン接種におけるデマンドバスの臨時運行についてご報告させていただきます。濃飛乗合自動車様とライドシステム様のご協力のもと、デマンド小坂とデマンド馬瀬の臨時運行を計画しました。デマンド小坂は7月10日、31日の小坂ふれいあいセンターでの高齢者対象集団接種に対応した臨時便。デマンド馬瀬は7月3日、24日、7月4日、25日分で、星雲会館での高齢者対象集団接種に対応したものの臨時便です。

結果として、デマンド馬瀬は予約者がなかったため運行しませんでした。デマンド小坂までについては、7月3日に5名、31日に4名のご利用がありました。

以上ご報告します。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございました。それでは最後に会議の総評としまして倉内先生よろしくお願いします。

○岐阜大学教授 倉内文孝

皆さんお疲れ様でした。今日は、実のあるという言い方がいいのかわかりませんが、観光の方の視点からと、それに対して地元の方のご意見、どちらも非常に良かったと思っております。車両キャパは決まっているので、全てをどちらかにという訳にはいかない所もあります。そういった中で、どう折り合いをつけていくか、それを議論していかないといけない会議だと、改めて認識しております。

一方で、先ほど小林委員の方から、空白地帯があるのでどうにかしないといけない、或いは、この先どんどん住民が減っていく中で、このままでやっていけるのかということは真剣に考えないといけない。おっしゃる通りだと思います。その中で、もしかすると、その観光で乗車したいニーズを放っておいたら、例えば週2回、1日2便しか利用がないところに、観光でのニーズで、毎日運行ができるとかいうことも起こり得ると思います。そういう意味で、うまくミックスしていく事は、意味があると考えておりますので、決して相反する必要は全然なくて、ニーズを両方で理解しながら、うまくできるところはやっていこう、どうしてもうまくいかない所については改めて議論をしないといけない、そういったものだと思っております。

1点はですね、免許返納の状況というのが気になりました。いわゆる免許返納の状況をこの会議で報告いただけると、非常にいいかなと思っております。又、免許返納されている方の地域なんていうのもある程度わかってくると、実は公共交通がうまく回っているか回っていないかの指標になるように思いました。免許返納と言っても、手放せないところがたくさんあるっていうのは重々承知ですけど、とはいえ、ここ昨今、深刻な事故も起きていますので、ご家族の方にしてみれば、高齢のおじいちゃんおばあちゃんには、もう公共交通を使っていた方がいいというようなところもあると思いますのでそういったことも、ぜひ議論していただければと思って聞いておりました。

いずれにせよ、非常に実りある議論ができたと思いますし、今後もしっかりと住民の方の意見、及び、皆様の非常に建設的なご意見をぜひ汲み取っていただいて、検討いただければというふうに思います。よろしくお願いします。

○事務局（生活課長）森本容功

ありがとうございます。それでは閉会の挨拶を藤澤生活部長が申し上げます。

○生活部長 藤澤友治

皆様、大変御苦勞様でございました。我々公共交通に携わるものでございますが、利用される方の利便性が少しでもわかるように頑張っていきたいと思っておりますので皆様のご協力をよろしくお願いします。今日は、ご苦勞様でした。